

熱を出す主な病気は？

【 発熱はウイルスや細菌による感染がほとんどです 】

発熱とは、平熱以上の体温をいいます。お子さんの場合、年齢によってよくかかる病気が異なりますが、その原因の大部分はウイルスや細菌による感染です。

しかし、リウマチや川崎病、白血病などが原因になっていることもありますので、お子さんの症状をよく観察することが大切です。

症状により疑われる病気

【くしゃみ・鼻水・せき・のどの痛み】	: かぜ・インフルエンザ
【口臭・のどの痛み】	: 扁桃腺炎
【耳痛・耳だれ】	: 急性中耳炎
【発疹】	: 突発性湿疹・はしか(麻疹)・風疹・水痘・しょう紅熱・川崎病
【せきが続く・呼吸困難】	: 気管支炎・肺炎
【嘔吐・下痢・腹痛】	: 急性胃腸炎・食中毒
【耳たぶ下のはれ】	: 流行性耳下腺炎
【リンパ節のはれ・関節痛】	: 白血病・関節炎・骨髓炎・若年性関節リウマチ
【はげしい頭痛・けいれん・意識障害】	: 脳炎・髄膜炎

【 熱が出た時の治療は？ 】

熱を下げる薬・・・解熱剤

熱が高くなるのも、からだの**防御反応**の1つですから、すぐに解熱剤を使わないようにしましょう。

しかし、熱を下げると体力の消耗を防げるときもあり、高い熱が出た時には、飲み薬か坐薬の解熱剤が使われます。解熱剤は、38.5 の熱が続き、ぐったりしていたり、機嫌が悪いときなど、全身状態が悪いとき、熱のために眠れないときなどに使います。熱がでたからといって、むやみに使うことは避けましょう。医師の指示に従って下さい。

原因の病気の治療薬

原因が感染症の場合は、抗菌剤や抗ウイルス薬などの薬が使われますが、お医者さんの指示通りに飲ませましょう。

